



仁淀川町山間部 交通課題は？ 県大生が聞き取り

【佐川】高知県立大学の社会福祉学部の学生が14日、仁淀川町の山間部、中津川流域で暮らす高齢者宅を訪ね、地域交通の課題など日常生活の困りごとを聞き取った。

愛媛県境に接する中津川流域では現在、一部でバスが少数運行されているのみ。住民らは普段、親族の車などに乗って町中心部に出て買い物や通院を済ませているという。

学生は県大の田中きよむ教授(60)のゼミ生ら。田中教授はこれまで、学生とともに住民との座談会に参加し、日常的な移動手段を尋ねるアンケートなどを実施しており、今回は初めて訪問による聞き取りを実施した。

高齢者の生活現状知る

この日は町社会福祉協議会の協力で、学生7人が70代後半～90代の高齢者11人の自宅へ。高齢者は「バスの本数が少なく、ちょうどいい時間に来ない」「今は自分で車を運転できるが、将来が不安」などと打ち明けた。また、先月の大雪に際し「除雪車が来るまで5、6日かかり、山を下りられず心細かった」との声も上がっていた。

山暮らしの現状に触れた4年の並川采由奈さん(22)は「皆さんの生活は、薄氷の上に成り立っているように感じた」。田中教授は、聞き取り内容を町地域福祉活動計画の策定などに生かすとして「持続可能な地域づくりへ解決策を考えたい」と話していた。(楠瀬健太)